

今回の日食のサロス周期の関係にある日食について

山口 正博

一般に、18年11日（中間に閏日うるすが5回入れば10日）8時間ほどの周期で、類似した性質をもつ日食（または月食）が繰返して起ります。もう少し詳しくいえば6585.32日で、この周期を1サロス（Saros）といいます。1朔望月（月のみちかけの周期）は29.5306日、1交点月（月が地球の太陽のまわりを公転する軌道の平面、すなわち黄道面に対し、北または南に偏する周期）は27.2122日、1近点月（月と地球との間の距離が変化する周期）は27.5545日であり、235朔望月と242交点月と239近点月がほとんど等しく、これが1サロスになるわけです。

今回の日食のサロス周期の日食は、次のようになります。なお、この表も日本標準時（JST）で示しました。

年 月 日 (曜日)	時 刻	最大皆既継続時間	サロス
1919年 5月 29日 (木)	22 ^h 8 ^m 09 ^s	6 ^m 51 ^s	4サロス前
1937 6 9 (水)	5 41.0	7 4	3サロス前
1955 6 20 (月)	13 10.7	7 8	2サロス前
1973 6 30 (土)	20 38.7	7 4	1サロス前
1991 7 12 (金)	4 6.2	6 52	今回の日食
2009 7 22 (水)	11 36.4	6 39	1サロス後
2027 8 2 (月)	19 7.8	6 23	2サロス後
2045 8 13 (日)	2 42.6	6 6	3サロス後
2063 8 24 (金)	10 22.1	5 49	4サロス後

このように今回の日食のサロス周期の日食は、いずれも最大皆既継続時間が長いという特徴があります。しかし、1955年6月20日の日食の継続時間が最長であり、漸次減少の傾向にあります。なお、今回の日食の1サロス後の2009年7月22日（水）の日食は、皆既日食帯が九州の南西海上にある奄美大島あまみを通ります。